



特産だけでは売れない。付加価値を高めた商品で勝負。

かぼすは日本一、ゆずも国内屈指の生産量を誇る大分県。この2つの名産品に蜂蜜とコラーゲン、生ローヤルゼリーを加えた機能性飲料が「ゆずの雫」「かぼすの雫」だ。今春販売されたばかりだが、早くも有名デパートのバイヤーなどから問い合わせが集中している。この人気の背景には、創業1世紀の歴史をもつ近藤養蜂場の巧みなマーケティング戦略があった。

競合も多く、単純にかぼすやゆずを使ったジュースを作っても売れないと考えた同社専

務の近藤氏。目をつけたのが、健康志向をバックに拡大し続ける機能性飲料市場だった。商品のメインターゲットを健康や美容に敏感な中高年の女性に設定。かぼすやゆずに、「コラーゲン」や「生ローヤルゼリー」を加えた付加価値の高い機能性飲料の開発に注力した。

開発まで1年半。今後は、三大都市圏での販路拡大が課題。

しかし、開発は難航した。コラーゲンの臭みが、かぼすやゆずの爽やかな風味を打ち消してしまうのだ。果汁とその他の成分の配合比率や配合のタイミングを試しては試飲

(上) 大分県国東半島の山里で採蜜されるレンゲ蜂蜜。「ゆずの雫」「かぼすの雫」にたっぷり配合される。
 (中) キズがついたり、規格外サイズのかぼすを、生産者から購入。美味しさのためにひとつずつ手剥きしてタネを取り出し、皮と果汁をわける。地道な手作業だ。
 (下) 安全を追求し、製造から梱包まで自社で管理。

を繰り返す日々が続いた。ようやく満足のいく商品が完成したのはスタートから1年半後のことだった。

満を持して発売された商品だけに、大手デパートで扱われる予定など滑り出しは上々だ。今後は、高級志向の高い三大都市圏でのさらなる販路拡大を狙っていく。



生産から出荷まですべて自社工場で行う「ゆずの雫」と「かぼすの雫」。

【大分県・豊後高田市、杵築市】
大分県産のゆず、かぼすを使った新商品の健康、高級志向が強い首都圏向け販路開拓
有限会社 近藤養蜂場

Company Info.

「母の心」と「農の心」を持ち100年間、真面目に蜂蜜造りに取り組む。

明治42年の創業以来、大分県国東半島を中心に日本各地で伝統的な「転地養蜂」を守り続ける近藤養蜂場。みつばちとともに日本各地の花を追い続け、採蜜から熟成まで手間ひまかけて作った蜂蜜をメインに、無添加のハニージャムや蜂蜜飲料まで蜂蜜商品を展開。“採れたての蜂蜜を食べて健やかな毎日を送ってほしい”という「母の心」と“日本の養蜂業を次世代へ伝えたい”という「農の心」、その二つの心で、美と健康に貢献できるオンリーワンのハニーファクトリーを目指している。



近藤成明さん／専務取締役。夢は社員一人一人の夢を叶える会社を作りたいと話す4代目。優しく温かい人柄で、次世代の養蜂業界をリードしていくキーマンだ。



○活用する地域資源：かぼす、ゆず

大分名物のかぼすとゆず。2つの果汁に、女性に人気の「コラーゲン」と「生ローヤルゼリー」を加えた新しい機能性蜂蜜飲料がデビューした。開発者は創業1世紀の老舗養蜂家。香料などの添加物や砂糖は一切加えず、れんげ蜂蜜の甘さと新鮮果汁の酸味が活かしているフレッシュドリンクだ。健康志向の高い女性を主要ターゲットに、年間1千万円の売上を目指す。

蜂蜜と名産品にコラーゲンを加え健康志向客に訴求。